

船舶事故等調査報告書

平成27年4月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|--|--|
| 事故等番号 | 2014広第208号 |
| 事故等種類 | 乗揚 |
| 発生日時 | 平成26年11月20日 07時30分ごろ |
| 発生場所 | 境港第1区 境港防波堤灯台から真方位261°1,200m付近 (概位 北緯35°33.03' 東経133°15.54') |
| 事故等調査の経過 | 平成26年12月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。 |
| 事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 | 漁船 第十八 ^{いち} 丸、19トン SN2-2882（漁船登録番号）、株式会社一丸 第292-49142号（船舶検査済票の番号） |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 |
| 死傷者等 | なし |
| 損傷 | 船首部船底に亀裂、推進器翼に曲損 |
| 事故等の経過 | 本船は、船長ほか1人が乗り組み、船長が、単独の船橋当直につき、背もたれ付きの椅子に腰を掛け、手動操舵で境港の航路を西進中、居眠りに陥り、平成26年11月20日07時30分ごろ境港外港1号岸壁東端沖の浅所に乗り揚げた。 船長は、本船の損傷状況を確認し、目的地である境港の造船所に乗り揚げたことを連絡した。 本船は、クレーン台船により離礁し、自力で造船所まで航行した。 |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の初期、潮高 約8cm（境） |
| その他の事項 | 本船の喫水は、船首約0.6m、船尾約1.8mであった。 船長は、本事故後、周囲に航行中の他船を見掛けず、間もなく目的地に着くので、気が緩んだと思った。 甲板員は、入港準備のため船尾部で係船索の準備をしていた。 |
| 分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析 | あり なし なし 本船は、境港の航路を西進中、単独で船橋当直に当たっていた船長が居眠りに陥ったことから、境港外港1号岸壁東端沖の浅所に乗り揚げたものと考えられる。 船長は、背もたれ付きの椅子に腰を掛けて船橋当直中、周囲に航行 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>中の他船を見掛けず、間もなく目的地に着くので、緊張感が緩んで覚醒水準が低下したことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p> |
| 原因 | <p>本事故は、本船が、境港の航路を西進中、単独で船橋当直に当たっていた船長が居眠りに陥ったため、境港外港 1 号岸壁東端沖の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p> |
| 参考 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 操船中に眠気を感じた場合、椅子から離れて身体を動かすなどして眠気を解消すること。 |